



2021年8月13日

各位

会社名 株式会社ブシロード
 代表者名 代表取締役社長 橋本義賢
 (コード番号: 7803 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 村岡敏行
 (Tel. 03-4500-4350)

連結業績予想と実績値の差異及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2021年6月24日に公表いたしました2021年6月期の通期連結業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、以下のとおりお知らせいたします。また、個別業績の前期実績との差異についても併せてお知らせいたします。

記

1. 2021年6月期の通期連結業績予想値と実績値との差異（2020年8月1日～2021年6月30日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 32,300	百万円 200	百万円 400	百万円 △300	円 銭 △18.54
実績値(B)	32,569	344	583	△284	△17.60
増減額 (B - A)	269	144	183	16	
増減率 (%)	0.8	72.0	45.7	—	
(ご参考) 前期連結実績 (2020年7月期)	33,000	2,710	2,755	1,551	96.54

(注) 当社は、当連結会計年度より決算期（事業年度の末日）を7月31日から6月30日に変更しております。決算期変更の経過期間となる当期は2020年8月1日から2021年6月30日の11ヶ月間の変動的な決算となり、参考として記載しております前期連結実績は、2020年7月期通期（2019年8月1日から2020年7月31日までの12ヶ月間）の実績を記載しております。

【差異が生じた理由】

連結売上高、連結営業利益及び連結経常利益については、第4四半期において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う景況感の悪化の影響を引き続き受けた一方で、ライブ IP 事業の業績への影響が想定よりも限定的であったことなどから、業績予想を上回る着地となりました。

また、第4四半期においてフロントウイングラボ株式の取得価額の基礎とした事業計画に対して、計画上で想定していたアプリゲームの低調を要因とした実績値との乖離があり、減損の兆候があると認められ、事業計画の実現可能性を考慮した割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較した結果、減損損失の認識が必要とされたため、140百万円を減損損失として計上しました。しかし、利益の上振れ分で吸収できたことから、親会社株主に帰属する当期純利益についても業績予想から改善いたしました。

2. 2021年6月期の個別業績と前期実績との差異（2020年8月1日～2021年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 20,026	百万円 1,385	百万円 1,516	百万円 734	円 銭 45.72
当期実績(B)	19,057	△132	△248	△930	△57.45
増減額(B-A)	△969	△1,517	△1,764	△1,664	
増減率(%)	△4.8	—	—	—	

(注) 個別業績においても決算期変更に伴い、2021年6月期は11ヶ月の変則決算となっておりますので、増減率は会計期間の長さの異なる実績値を基準に算出しております。

【差異が生じた理由】

売上高につきましては、TCG（トレーディングカードゲーム）部門が国内外で好調を維持したため、11カ月の変則決算であったにも関わらず、前期と比較して969百万円の減少にとどまり、19,057百万円となりました。

一方で、営業利益についてはMOG（モバイルオンラインゲーム）部門において、新規アプリゲームが低調にとどまったことに加え、特に下期において既存アプリゲームの売上が伸び悩み、部門全体として収益性がやや低下したことや、MD（マーチャンダイジング）部門において新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止・延期による物販売上が減少したことから、前期比1,517百万円減少し、△132百万円となりました。

また、経常利益については、関係会社長期貸付金に対する貸倒引当金繰入額を472百万円計上したことなどから、前期比1,764百万円減少し、△248百万円となりました。

当期純利益については、投資有価証券評価損を202百万円、関係会社株式評価損を431百万円計上したことなどから、前期比1,664百万円減少し、△930百万円となりました。

なお、関係会社長期貸付金に対する貸倒引当金繰入額472百万円及び、関連会社株式評価損431百万円は連結実績値への影響はございません。

以 上